

》商工会議所活用レシピ

ブランド認定がきっかけ
広がった人脈で次々と新たな事業に挑戦！

当社は、浜松市の中心部にあった「梅月堂本店」から暖簾分けという形で昭和7年に創業した和菓子店で、その後、20年に屋号を「田町梅月」と改名しました。

創業以来、数々の銘菓を誕生させてきましたが、その筆頭は何といつても「布橋の雪」です。32年の昭和天皇行幸の折、ご宿泊されたホテルからの依頼で、陛下に献上する菓子として創作されたもので、いまもわが社の看板商品となっています。この商品が平成19年、浜松商工会議所の地域ブランド「やらまいか浜松」の認定を受けました。

「やらまいか」とは、この地方の方言で「やってみよう」という意味です。食品をはじめ、祭りや伝統工芸品、先端技術など多分野から浜松の良いものだけを厳選

選んでいる「やらまいか浜松」のブランド認定事業者の一人として、商工会議所が主催する多くのイベントやプロモーション活動に参加。たくさんの人に和菓子の良さを伝えることができました。

ただ私にとって、それ以上に大きな成果となったのは、認定事業者との交流を通じて、この地域の農産品の豊かさを知ったことです。そこで、すぐにこれらを使った新たな菓子づくりを始めました。そして、出来上がったのがブランド商品の一つ、浜松地域特別栽培米「やらまいか」の米粉を100%使用したバームクーヘン「米寿」です。口どけの良さとしっとり感を併せ持った米寿は、静岡県の米粉FODDコンテスト2009で金賞を受賞しました。現在、こうした商品を「遠州の

恵み」という社内ブランドで売りに出しています。

また、本年3月には、認定事業者の有志で、「いざ！濱松城出世市inさくらまつり」を、浜松城公園広場で開催しました。これは、まずは地元の人にこそ、もっと地域の素晴らしさを知ってもらわなければと企画したもので、連日大盛況となりましたが、その成功の陰には商工会議所のサポートがあったことは言うまでもありません。浜松市も「やらまいか浜松の認定事業者ならば」と会場使用を許可してくれました。

こうして認定をきっかけに新たな展開が生まれ、それがさまざまな方面へと広がっています。これからも、ブランド事業を通じていろいろなことに挑戦していきたいですね。



株式会社 田町梅月
代表取締役社長
富田 直満 さん

担当者からひと言



浜松商工会議所(静岡県)
経営指導員
水島 大統

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

「やらまいか浜松」は、地元が誇れる資源を発掘して光を当て、全国に発信しようと、平成17年度に立ち上げた地域ブランド。そのブランドストーリーは75品目にまで拡大しています。富田さんには、小学校などでの普及活動をはじめ、さまざまな事業に参加してもらっていますが、その行動力にこちらも大いに刺激を受けています。

当所議員や認定事業者の協力を得て、ブランドの認知度は少しずつ上がってきました。しかし、まだまだ道半ば。将来的には、認定品が浜松と他地域の皆様との「交流の懸け橋」になることを期待しています。

その結果として、浜松地域のさらなる活性化を実現したいですね。